過去から未来へ、ガラスは今日も生きている。

なぜガラスは、何千年もの間、その姿を変えないのでしょうか。

私の宝物のひとつ…それは古代エジプトのビーズの首飾り。
パリの骨董店で買ったのですが、先日、それによく似たガラス玉に出会ったのです。
「吉野ヶ里遺跡のガラスの管玉」と記された写真には、
コバルトブルーも鮮やかなガラス製の細長い玉が写っていました。
吉野ヶ里といえば、佐賀県で発見された弥生時代の遺跡です。
そのお墓から、青銅の剣と一緒に75個の管玉が出土したのでした。
不思議ですね。二千年以上も前につくられた管玉なのに、
なんて美しい色を保ちつづけているのでしょうか。
そのヒミツは、ガラスの…〝水に溶けにくく、物質をしっかり閉じ込める性質〟にある…
と聞かされました。そういえば、ガラスは五千年以上も前に発明され、
メソポタミアやエジプトの古代遺跡から出土した品々は、
今もなお美術館という舞台で色鮮やかな姿を伝えています。
二十一世紀の今、ガラスは、ハイテク技術という舞台でも重要な役割を
演じるようになり、まだまだ、限りない可能性を秘めているようです。